

米の需給に関する動向

1 米の出荷・販売の動向

平成18年産（うるち米）の単位農協等から全国出荷団体（全農・全集連）への販売委託数量は、10月末現在で276万トン

単位農協等による独自販売の取組は前年と同水準で推移

（1）米の出荷の動向

平成18年産米の生産者から単位農協等へのうるち米の出荷（販売委託・売渡・過剰米区分出荷）数量を「生産者の米穀現在高等調査」でみると、416万トン（10月末現在）と、前年（10月末現在で432万トン）を下回る水準となっています（表 - 1）。

このうち、単位農協等から全国出荷団体（全農・全集連）への販売委託数量についても、18年産は276万トン（10月末現在）となっており、17年産米（10月末現在で298万トン）を下回る水準となっています。

他方、生産者から単位農協等以外への売渡数量（直接販売）については92万トン（10月末現在）となっており、17年産米（10月末現在で93万トン）と同水準で推移しています。

表 - 1 米の出荷（販売委託・売渡）の動向

（単位：万トン）

	平成 12年産	13	14	15	16	17	10月末現在	10月末現在
（生産者 単位農協等）								
生産者 単位農協等	499	502	507	407	512	535	（ 432 ）	（ 416 ）
単位農協等 全国出荷団体販売委託	466	434	423	318	382	383	（ 298 ）	（ 276 ）
単位農協等の独自販売数量	24	28	30	42	70	71		
	～ 33	～ 68	～ 84	～ 89	～ 130	～ 145	-	-
過剰米区分出荷見込数量	-	-	-	-	0	7	（ 0 ）	（ 0 ）
（生産者 単位農協等以外）								
直販数量	162	154	154	150	136	131	（ 93 ）	（ 92 ）
無償譲渡数量	62	61	62	55	55	55	（ 27 ）	（ 28 ）
（農家消費等）	89	84	82	78	75	71	（ 23 ）	（ 21 ）

資料：全国出荷団体調べ、農林水産省「生産者の米穀現在高等調査」、「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」等を基に作成

注：1）うるち米（くず米含む）の値である。

2）単位農協等には全集連傘下の出荷取扱事業者を含む。

(2) 米の販売の動向

うるち米

民間流通米(主食用うるち米)のうち、全農・全集連販売米(全農・全集連が販売委託を受けて販売した数量)の10月の販売実績は29.8万トンとなっています。

また、7～10月累計では100.6万トンとなり、前年を大きく上回る水準となっています(表 - 2)。

表 - 2 全国出荷団体(全農・全集連)販売米の月別販売状況

(単位:千トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	7-10月 累計	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	年計
15年	269	254	279	411	1,213	443	231	127	126	187	186	200	291	3,004
16年	182	186	213	513	1,094	211	222	191	224	365	327	270	526	3,430
17年	166	186	192	248	792	209	240	221	225	309	265	298	317	2,876
対前年比	16		21	265	302	2	18	30	1	56	62	28	209	554
18年	242	253	213	298	1,006									
対前年比	76	67	21	50	214									

資料: 全国出荷団体調べ

表 - 3 生産者から単位農協等への出荷数量の推移

(単位：千トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	7~10月 累計	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~6月 累計
16年	40	150	1,692	2,224	4,106	631	366	21	2	2	1	0	0	5,119
17年	22	164	1,716	2,418	4,320	634	343	36	7	1	2	3	1	5,346
対前年差	17	14	25	193	214	13	24	14	5	1	1	3	0	227
18年	7	127	1,481	2,543	4,158									
対前年差	16	37	235	125	163									

資料：農林水産省「生産者の米穀現在高等調査」

- 注：1) うるち米の出回り数量である。
 2) くず米を含む値である。
 3) ラウンドの関係で合計と内訳は一致しない場合がある。

表 - 4 生産者から単位農協等以外への売渡数量の推移

(単位：千トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	7~10月 累計	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~6月 累計
16年	36	90	362	455	942	152	75	29	30	31	36	33	33	1,362
17年	37	85	366	449	927	131	60	29	30	35	33	33	31	1,309
対前年差	2	5	6	6	16	21	15	0	0	4	3	0	2	54
18年	35	74	339	475	922									
対前年差	3	11	17	26	4									

資料：農林水産省「生産者の米穀現在高等調査」

注：表 - 4 と同じ。

表 - 5 生産者の無償譲渡数量の推移

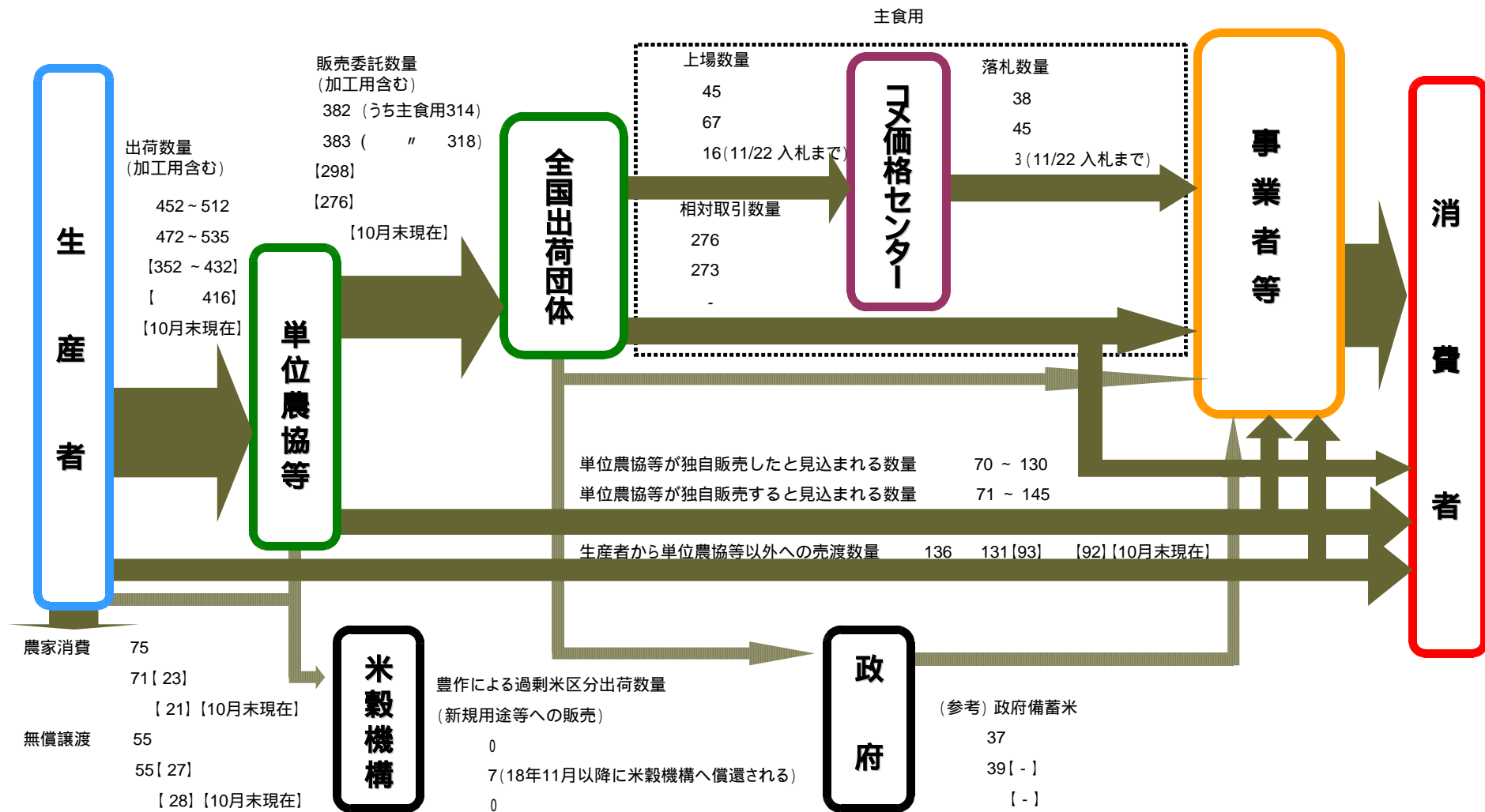
(単位：千トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	7~10月 累計	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~6月 累計
16年	33	48	80	103	265	59	62	29	25	27	30	30	25	550
17年	30	52	81	108	271	56	58	29	23	27	28	32	25	550
対前年差	2	4	1	4	7	3	3	0	1	0	2	2	0	0
18年	30	47	86	119	282									
対前年差	0	4	4	11	10									

資料：農林水産省「生産者の米穀現在高等調査」

注：表 - 4 と同じ。

図 - 1 米流通の現状（うるち米）（速報値）



資料: 全国出荷団体調べ、農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」「生産者の米穀現在高等調査」等を基に作成

注: 1) 、 、 はそれぞれ平成16、17、18年産の値で、単位は万トンである。

2) 出荷数量は「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」「生産者の米穀現在高等調査」を基に推計した値である。

3) 販売委託数量は全国出荷団体に販売委託された値である。なお、うち主食用には政府売渡分(予定)を含まない。

4) 17年産のコメ価格センターへの上場数量は前回からの繰越数量を除いた値である。相対取引数量は全国出荷団体への販売委託数量(うち主食用)から落札数量を差し引いた値である。

5) 単位農協等独自販売数量は、「生産者の米穀現在高等調査」、「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」による出荷、集荷数量の値から、全国出荷団体への販売委託数量、過剰米区分出荷数量を除いた値である。

6) 生産者の直接販売数量、農家消費、無償譲渡数量は「生産者の米穀現在高等調査」を基に推計した値である。

7) 17年産の豊作による区分出荷見込数量は区分保管された後、18年11月以降に米穀機構へ償還される。

もち米

近年のもち米の生産数量は、作柄等の影響もありますが、ほぼ一貫して増加傾向で推移しています。

これは、15年産もち米の不作によるもち米価格の上昇やその後のうるち米との価格差等により、うるち米からもち米へ作付けがシフトしたものと考えられます。

そのような中で、近年の全国出荷団体扱いのもち米の集荷状況は、全体の生産量と同様に増加傾向にあります（表 - 6）。

また、販売状況についても、各需要者が持越在庫を抱えている状況にあり順調とは言い難いところです。この結果、各年度の古米の翌年持越し状況は大幅に増加しています。

18年産もち米の作付けは、種子の配布量等から依然として増加傾向にあると推測されています。九州の一部において台風等の被害による減収が見込まれるものの、主産地の北海道等で17年産に引き続いての豊作が見込まれるため、更なる供給過剰の状態になることは確実な状況であり、もち米の需給と価格の安定を図るためにも、19年産では、全国的な生産抑制を強力に推進、需給の均衡を目指すことが喫緊の課題となっています（表 - 7）。

表 - 6 もち米の生産数量の推移

	13年産	14年産	15年産	16年産	17年産
作付面積(千ha)	53	56	55	61	63
総生産量(千トン)	297	258	234	284	326
水稻作況指数	103	101	90	98	101
うち旧自主流通米(千トン)	114	94	58	113	135

資料：農林水産省「水稻の品種別収穫量」等を基に作成

注：ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

表 - 7 もち米の月別販売数量

（単位：千トン）

販売年度	年産	当初供給量	当年7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	販売量計	持越在庫
16年度	15年産	22	3	4	5	11	0	0	0	0	-	0	0	0	22	0
	16年産	113	-	0	0	4	13	17	4	4	7	5	4	5	64	49
	計	135	3	4	5	15	13	17	4	4	7	5	4	5	86	49
17年度	15年産	0	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	0	0
	16年産	49	6	8	10	(11)25	0	0	0	0	0	-	-	-	(11)49	0
	17年産	132	-	0	0	2	9	14	3	3	6	6	5	5	54	78
	計	181	6	8	10	28	9	14	3	3	6	6	5	5	104	78
18年度	17年産	78	6	7	11	(23)42									(23)66	11
	18年産	130	-	-	0	2									2	128
	計	208	6	7	11	44									69	139

資料：全国出荷団体調べ

注：1)表 - 6の注と同じ。

2)18年10月の値は速報値である。

3)()書きは、一括所有権移転分であり内数である。

清酒用原料米

全国出荷団体扱いの清酒用原料に供される米穀の販売数量は、清酒の消費が年々減っていることに伴い、全体として減少傾向にあります。

特に、清酒醸造工程における増量材として使用されているかけ米については、アルコール添加量の増加や「液化仕込み」等のアルコール収得量が多い醸造法の普及等により、より少ない量の米で醸造される傾向にあり、清酒そのものの消費減と重なって使用量が減少しています。

一方、醸造用玄米については、麴米・酒母用に使用するため代替が利き難いこともあり、近年、ほぼ同水準で推移しています(表 - 8)。

表 - 8 清酒用原料米の月別販売数量

醸造用玄米

(単位：千トン)

販売年度	年産	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	7～2月 累計	3月	4月	5月	6月	販売量 計
16年度	15年産	0	1	1	2	-	-	0	0	4	0	-	-	-	4
	16年産	-	0	3	11	17	14	8	5	57	2	1	0	0	60
	計	0	1	4	13	17	14	8	5	60	2	1	0	0	64
17年度	16年産	0	1	2	4	0	-	0	-	6	-	-	-	0	6
	17年産	-	-	2	10	17	12	8	4	53	2	1	1	0	56
	計	0	1	4	14	17	12	8	4	59	2	1	1	0	62
18年度	17年産	0	1	3	4					8					8
	18年産	-	-	2	11					13					13
	計	0	1	5	15					21					21

かけ米

(単位：千トン)

販売年度	年産	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	7～2月 累計	3月	4月	5月	6月	販売量 計
16年度	15年産	0	3	4	8	0	0	-	0	16	-	-	-	-	16
	16年産	-	1	1	7	8	8	6	5	35	3	3	1	1	44
	計	0	4	5	15	8	8	6	5	51	3	3	1	1	59
17年度	16年産	0	2	3	6	0	0	-	-	12	-	-	-	-	12
	17年産	-	0	2	6	6	6	7	6	35	5	2	1	0	43
	計	0	2	5	13	7	6	7	6	46	5	2	1	0	55
18年度	17年産	0	2	3	5					11					11
	18年産	-	0	1	5					6					6
	計	0	2	5	10					17					17

資料：全国出荷団体調べ

注：1) 表 - 7 注) 1、2 と同じ。

2) 醸造用玄米とは、農産物規格規程(平成13年2月28日農林水産省告示第244号)に定められている米穀であり、品種として「山田錦」、「五百万石」等がある。

3) かけ米とは、一般に主食用としても供される米穀のうち、清酒用原料として使用されているものである。

加工用米

近年、加工用米の販売数量は、主食用価格の低迷による加工用米の価格メリットが薄れてきたこと等により、13万トン程度と減少傾向にあります。

一方、18年産は、総出荷契約数量が15万トン程度と見込まれ、17年産持越しを含めた18年度の供給量は20万トン程度となることが予想されており、相当量の需給ギャップが生じることとなります。

これは、近年生産調整の取組が強化される中、転作手法のうち、米の作付けが可能な加工用米への取組が増加した結果であると考えられ、必ずしも需要に応じた生産がなされているとは言い難い状況にあります。

したがって、今後の加工用米については、年々の需要量に見合った生産が課題となっており、作柄等による豊凶変動による豊作時の過剰分についても、作況調整を実施し確実に加工用途向けに流通させることが必要となります。

なお、16年産からは、地産地消の取組の推進の一環として、加工用米生産者(「流通契約農業者」(19年産より「地域流通農業者」と名称変更))が直接、地域の加工用米需要者と販売契約を締結することが可能となり、生産者の創意工夫を活かした取組として、今後ともその動向について注視していく必要があります(表 - 9、表 - 10)。

表 - 9 加工用米の月別販売数量

(単位：千トン)

販売年度	年産	当初供給量	当年7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	販売量計	販売残
16年度	14年産	2	0	1	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0
	15年産	65	7	7	12	23	2	2	2	2	2	2	1	1	63	3
	16年産	122	-	-	-	6	14	11	9	8	6	3	3	5	66	56
	計	189	8	8	12	29	16	13	11	10	9	5	5	6	130	59
17年度	15年産	3	1	1	1	1	0	-	-	-	-	-	-	-	3	0
	16年産	56	5	5	9	22	2	2	2	3	2	1	1	0	54	2
	17年産	127	-	-	-	6	12	12	11	9	10	6	7	8	82	45
	計	186	5	5	9	28	14	14	13	12	13	8	8	8	138	48
18年度	16年産	2	0	1	0	0									2	0
	17年産	45	6	6	8	16									37	8
	18年産	150	-	-	-	3									3	147
	計	197	7	7	9	20									42	155

資料：全国出荷団体調べ

注：1)表 - 7注) 1、2と同じ。

2)全国出荷団体が販売した加工用米の値である。

表 - 10 加工用米の出荷数量

(単位：万トン)

	全国出荷数量	うち地域における結びつき (流通契約農業者 実需者)	該当件数
16年産	12.2	0.1	5県8事例
17年産	12.9	0.2	6県14事例
18年産	15.2	0.2	6県21事例

資料：農林水産省調べ

注：1)流通契約農業者とは食糧法第5条第1項の認定を受けた生産調整方針を作成した者である。

2)18年産については、総出荷契約数量である。

2 政府米の販売の状況

政府米の最近の販売数量は増加傾向

政府米の販売については、一般競争契約(入札)を基本として、落札残が生じた場合には随意契約により行っています。

本年8月から9月までの間は、平成18年産米の本格的流通開始時期を控えて販売数量は減少しましたが、10月以降、業務用として使用される18年産の低価格米が不足していることを背景に、政府米の契約数量は増加しています(図 - 2、表 - 11)。

表 - 11 政府米の月別契約の状況

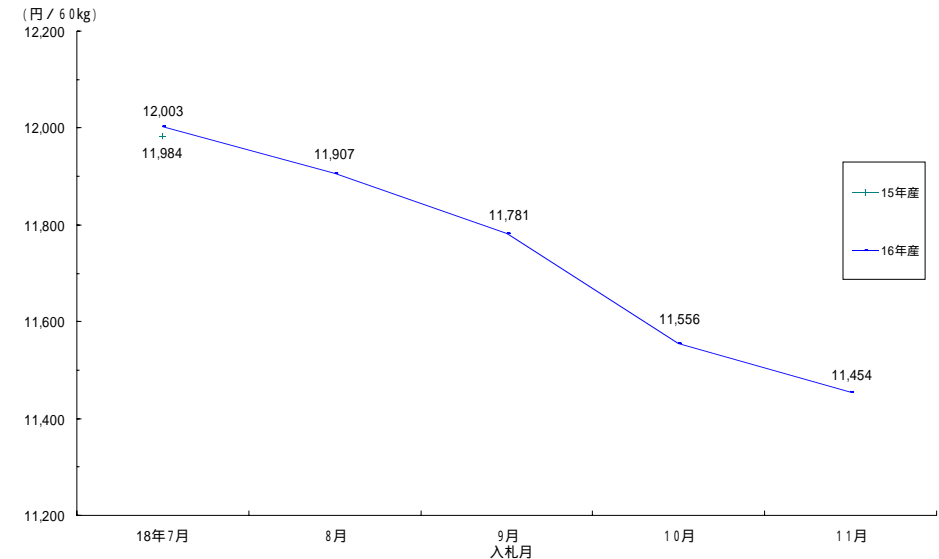
(単位：トン)

	平成18年 7月	8月	9月	10月	11月	合計
15年産	2,443	21	170	189	-	2,823
16年産	21,182	13,191	10,279	19,726	37,128	101,506
合 計	23,625	13,212	10,449	19,915	37,128	104,329

資料：農林水産省調べ

注：記載の数量は、落札(再度入札含む)数量に翌月入札までの随意契約販売数量を加えたものである。11月分は、落札(再度入札含む)数量のみ。

図 - 2 政府国内産米穀の落札価格の推移



資料：農林水産省調べ

注：消費税相当額を含まない160kg当たり包装込みの加重平均落札価格である。

3 在庫の状況

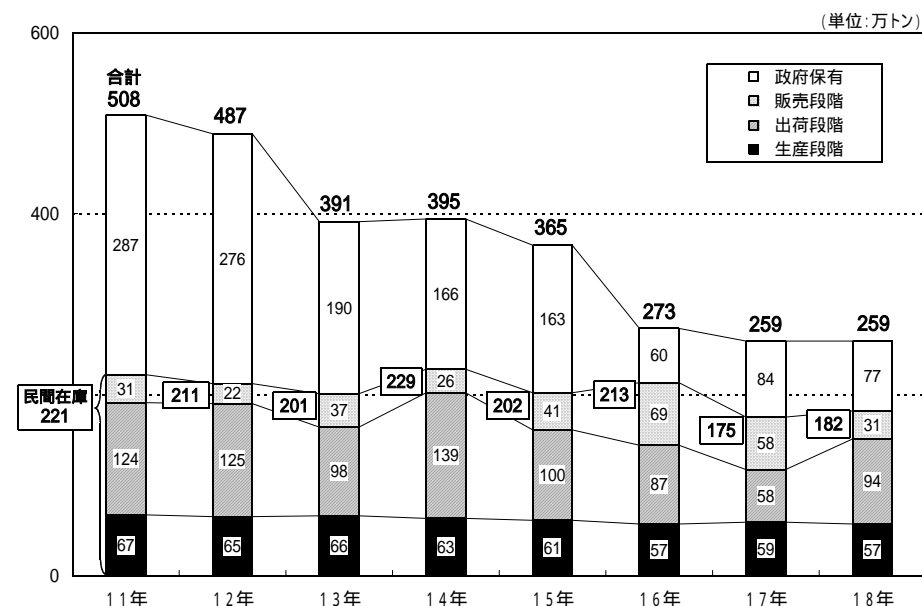
政府及び民間流通における平成18年6月末在庫量は
259万トン

旧登録卸売業者の月末在庫量は、18年10月末時点で
30万トン

(1) 政府及び民間流通における在庫の状況

主食用米の平成18年6月末の在庫量は、政府備蓄米が77万トン、民間流通における販売段階が31万トン、出荷段階が94万トン、生産段階が57万トンで、合計では前年と同数の259万トンとなっています(図 - 3)。

図 - 3 政府及び民間流通における6月末在庫の推移



資料：農林水産省調べ

注：1) うるち玄米及びもち玄米の値である。

2) 各年の民間在庫量において、

16年以降については、

年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。

15年については、

販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量である。

出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

14年以前については推計値であり、

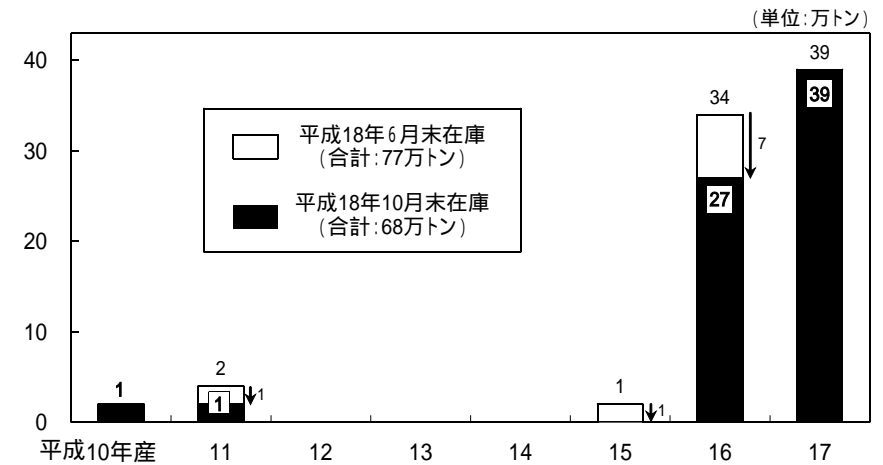
販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。

出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」を基に算出した在庫量から精米在庫量(推計)を控除した玄米在庫量である。

政府備蓄米の18年10月末の在庫量は68万トンとなっており、その構成の大宗は年産の新しい16、17年産が占めるようになったことから、回転備蓄方式が軌道に乗る環境が整ってきたところです（図 - 4 ）。

図 - 4 政府備蓄米の在庫状況（18年10月末現在）



資料：農林水産省調べ

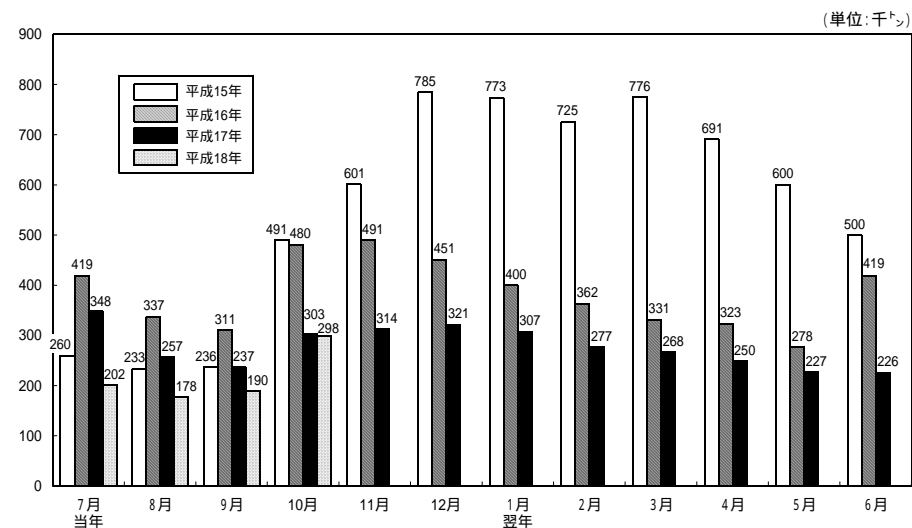
注：1) うるち玄米の数量である。

：2) 18年10月の値は速報値である。

(2) 流通在庫の状況

旧登録卸売業者の在庫量は、過剰な在庫は極力持たないとの姿勢から、本年9月までは前年同月より低い水準で推移していますが、10月には新米が本格的に出回り始めたことから、新米在庫が増加し、18年10月末で29.8万トンで、昨年と同水準となっています(図 - 5)。

図 - 5 旧登録卸売業者の月末在庫量の推移



資料：農林水産省調べ

注：1) うるち玄米の数量である。

2) 18年10月の値は速報値である。

4 価格の動向

コメ価格センターにおける平成18年産米取引は、毎週入札が行われ、北海道産の銘柄や、魚沼コシヒカリ等については落札率が高く、価格も前年同時期を上回るなど銘柄間の格差が非常に大きいのが特徴

今後、全国出荷団体を経由した販売が主体となっていく中で、センター入札と相対取引の動向を注視していく必要

(1) コメ価格センターの入札価格の動向

コメ価格センターでの取引については、米政策改革大綱において、実勢に即した価格形成がされるよう、米の取引の場を育成・拡充するとされており、これまでも、この方向に則し、入札取引のルールの整備等に努めてきました。

しかしながら、17年産米の取引実態において銘柄によっては大量の落札残が継続的に発生するなど売り手、買い手を含む関係者から市場としての機能の更なる改善の必要が指摘されました。

このため、本年2月に「コメ価格センターの取引のあり方等に関する検討会」を設置し、センター取引ルールの見直しの方角についての検討・取りまとめを行いました。

この取りまとめを踏まえ、コメ価格センターにおいては、入札取引頻度の増加（毎週水曜日入札）

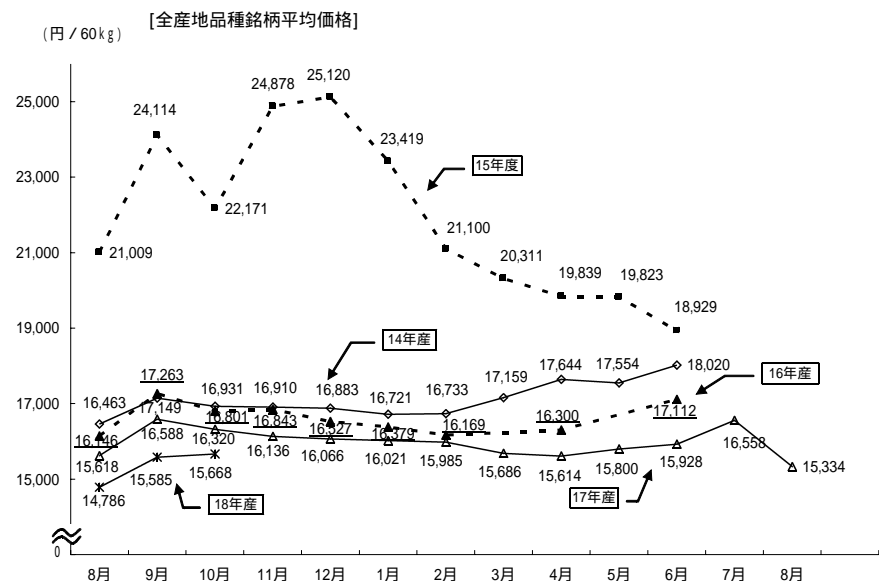
売り手・買い手それぞれのニーズに応じた新たな取引手法の導入

等を内容とする新たな取引ルールを決定し、18年産米取引より適用し、8月30日より毎週入札を実施しています。

これまでの取引においては65銘柄、16万4千トンが上場され、56銘柄、2万6千トンが落札、平均の落札率は16%となっており、価格については、前年と比較して、落札銘柄平均で600円/60kgから1,000円/60kg程度下回る水準で推移しています（図 - 6）。

この状況は、出来秋を中心に行われる産地からの直接販売等により必ずしもセンターを利用しない経路で買い手が必要量を手当てできること、大口割引がある相対取引と比べて入札取引の価格は一般的に高いこと等によるものと考えられます。

図 - 6 民間流通米の入札価格、落札率の推移
(全産地品種銘柄平均)



月別落札率

(単位: %)

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
16年産落札率	39.3	80.4	87.6	76.0	78.8	91.8	94.5	-	97.9	-	99.4	-	-
17年産落札率	96.1	69.4	58.6	51.1	45.1	54.0	55.9	35.8	31.9	44.9	58.0	45.8	49.3
18年産落札率	23.3	11.2	14.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料: (財) 全国米穀取引・価格形成センター調べ

- 注: 1) 価格には、包装代(紙袋)、抛出金、消費税を加えており、ウェイトは14~17年産までは銘柄ごとの落札数量、18年産は銘柄ごとの17年産検査数量実績としている。
 2) 14~17年産の8~10月の価格は月2回(上期・下期)実施のうち、上場銘柄数の多い下期の価格である。
 3) 14年産7月は北海道きら397(入札価格12,905円)のみの上場であり、グラフには掲載していない。
 4) 18年産から毎週入札となり、価格、落札率は月平均を掲載している。

産地品種銘柄ごとにみると、値頃感のある北海道きらら397、ほしのゆめ等やブランドとして力のある新潟コシヒカリ魚沼については、前年産に引き続いて買い手の引き合いが強く活発に取引がされています。一方、その他の多くの銘柄については落札率が低く、価格も前年産を下回っています(図 - 7、表 - 12、13)。

また、18年産米取引から新設した定期注文取引については、第9回入札(10月25日)において、大口割引の取引条件を付して18銘柄、3,732トンが上場された結果、12銘柄、1,976トンが落札、落札率は53.0%でした。

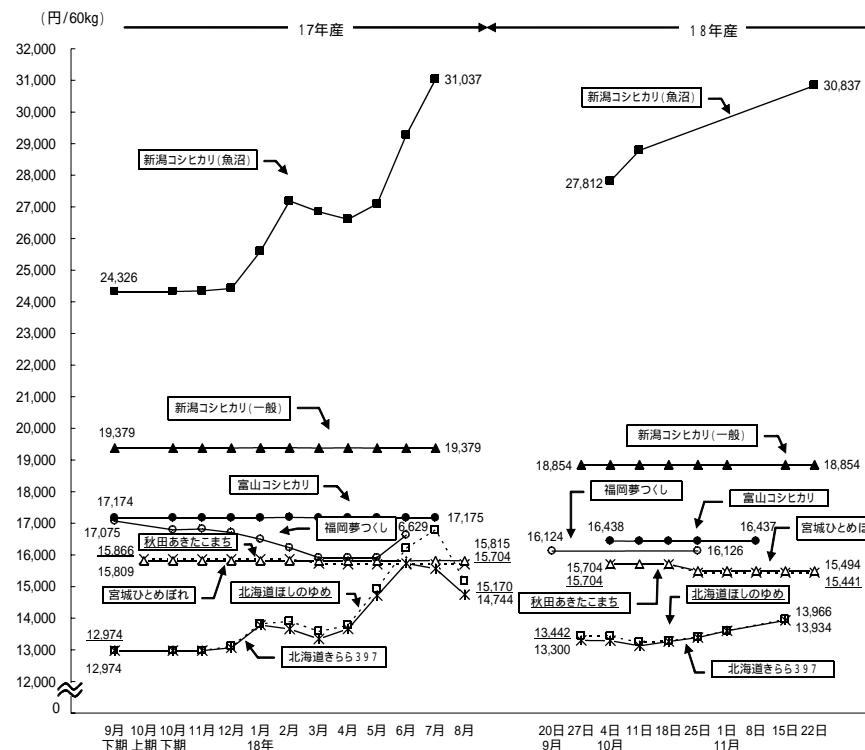
定期注文取引の活用や指値の修正などの活発な取引に向けた動きも見られることから、今後、全国出荷団体を経由した販売が主体となっていく中で、センター入札と相対取引の動向を注視していく必要があります。

解説「定期注文取引」

定期注文取引とは、産地品種銘柄、地域、価格、受渡時期、包装等の様々な取引条件を付して行う取引で、例えば落札数量に応じて値引を取引条件とする大口割引取引や3ヶ月先の受渡しを取引条件とする先渡し取引などを行うことができます。

また、定期注文取引は売り手だけでなく、買い手からの注文(上場の申し出)も可能であり、買い手が必要とする米の銘柄、価格、数量、受渡時期などの条件を示して、これに対し売り手が応札するという取引も行ふことができます。

図 - 7 主要な産地品種銘柄別の価格の推移



資料：(財)全国米穀取引・価格形成センター調べ

注：1) 価格には、包装代(紙袋)、抛出金、消費税を加えている。

2) いずれの銘柄も「コメ価格センター」業務細則第7条第1項に規定する「種子・栽培履歴確認米」である。

表 - 12 平成18年産第12回産地品種銘柄別入札結果
(11月15日・25銘柄)

(受渡時期：平成18年12月末日まで)

(1等・円/60Kg, トン, %, 倍)

取引 区分	産地	銘柄	地域 区分	その他 区分	受渡地	落札加重 平均価格	前回差		前年同期差 (11月24日)	上場数量	落札数量	落札率	申込数 量倍率
							価 格	日 付					
期別	北海道	きらら397		確認米	東京	13,934	336	11/1	960	1,020	1,020	100.0	6.4
期別	北海道	ほしのゆめ		確認米	東京	13,966	360	11/1	991	510	510	100.0	7.2
期別	北海道	ななつぼし		確認米	東京	13,797	358	11/1	-	510	510	100.0	5.4
期別	青森	つがるロマン		確認米	東京	14,024	0	11/8	399	680	389	57.1	0.6
期別	岩手	あきたこまち		確認米	東京	落札なし	-	10/11	-	216	0	0.0	0.0
期別	岩手	ひとめぼれ		確認米	東京	15,389	0	11/8	315	864	43	5.0	0.1
期別	宮城	ササニシキ		確認米	東京	15,494	1	11/1	315	216	32	15.0	0.2
期別	宮城	ひとめぼれ		確認米	東京	15,494	0	11/8	315	1,739	22	1.2	0.01
期別	秋田	あきたこまち		確認米	東京	15,441	1	11/8	424	2,032	12	0.6	0.01
期別	山形	はえぬき		確認米	東京	15,390	1	11/8	480	518	22	4.2	0.04
期別	庄内	はえぬき		確認米	東京	落札なし	-	10/25	-	670	0	0.0	0.0
期別	福島	コシヒカリ	会津	確認米	東京	16,754	0	11/1	630	302	11	3.6	0.04
期別	福島	ひとめぼれ		確認米	東京	15,179	0	11/1	525	270	11	4.0	0.04
期別	茨城	コシヒカリ		確認米	東京	落札なし	-	10/11	-	420	0	0.0	0.0
期別	栃木	コシヒカリ		確認米	東京	落札なし	-	11/1	-	996	0	0.0	0.0
期別	新潟	コシヒカリ	一般	確認米	東京	18,854	0	11/1	525	1,567	12	0.8	0.01
期別	新潟	コシヒカリ	岩船	確認米	東京	落札なし	-	11/1	-	257	0	0.0	0.0
期別	新潟	コシヒカリ	佐渡	確認米	東京	19,379	1	10/25	840	318	12	3.8	0.04
期別	新潟	こしいぶき		確認米	東京	15,389	0	11/8	315	220	24	11.1	0.1
期別	富山	コシヒカリ		確認米	大阪	落札なし	-	11/8	-	720	0	0.0	0.0
期別	石川	コシヒカリ		確認米	大阪	落札なし	-	11/8	-	204	0	0.0	0.0
期別	島根	コシヒカリ		確認米	大阪	落札なし	-	11/1	-	292	0	0.0	0.0
期別	岡山	コシヒカリ		確認米	大阪	落札なし	-	-	-	120	0	0.0	0.0
期別	岡山	あきたこまち		確認米	大阪	14,339	0	11/1	319	120	120	100.0	1.0
期別	岡山	ヒノヒカリ		確認米	大阪	14,494	155	11/1	161	120	120	100.0	2.7
計						15,517				14,901	2,870	19.3	0.9

資料：(財)全国米穀取引・価格形成センター調べ

注：1) その他の区分に「確認米」と記載されているものは、「コメ価格センター」業務細則第7条第1項に規定する「種子・栽培履歴確認米」である。

2) 落札加重平均価格は、銘柄ごとの落札加重平均価格に売り手から申出があった包装代(紙袋)、抛出金、消費税を含めた価格である。

この他、実際の受渡しに当たっては、購入地ごとに運賃加減表による運賃(格差)が加減される。

3) 計欄の落札加重平均価格は、落札銘柄ごとの落札加重平均価格を平成17年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

4) 前回差については、当該銘柄の落札のあった直前回の入札取引価格と比較している。

5) 数量については、トン未満を四捨五入している。

表 - 13 平成18年産第13回産地品種銘柄別入札結果
(11月22日・34銘柄)

(受渡時期：平成18年12月末日まで)

(1等・円 / 60Kg, トン, %, 倍)

取引 区分	産 地	銘 柄	地 区 域 分	そ の 区 分	受 渡 地	落札加重 平均価格	前 回 差		前年同期差 (11月24日)	上場数量	落札数量	落札率	申込数 量倍率
							価 格	日 付					
期 別	岩 手	あきたこまち		確 認 米	東 京	落札なし	-	10/11	-	216	0	0.0	0.0
期 別	岩 手	ひとめぼれ		確 認 米	東 京	15,389	0	11/15	315	864	11	1.3	0.01
期 別	宮 城	ササニシキ		確 認 米	東 京	落札なし	-	11/15	-	216	0	0.0	0.0
期 別	宮 城	ひとめぼれ		確 認 米	東 京	15,494	0	11/15	315	1,739	389	22.4	0.2
期 別	秋 田	あきたこまち		確 認 米	東 京	15,441	0	11/15	424	2,032	24	1.2	0.01
期 別	山 形	コシヒカリ		確 認 米	東 京	落札なし	-	11/8	-	108	0	0.0	0.0
期 別	山 形	あきたこまち		確 認 米	東 京	落札なし	-	-	-	108	0	0.0	0.0
期 別	山 形	はえぬき		確 認 米	東 京	15,389	1	11/15	481	518	22	4.2	0.04
期 別	庄 内	コシヒカリ		確 認 米	東 京	落札なし	-	10/25	-	216	0	0.0	0.0
期 別	庄 内	はえぬき		確 認 米	東 京	落札なし	-	10/25	-	670	0	0.0	0.0
期 別	福 島	コシヒカリ	中 通 り	確 認 米	東 京	15,914	0	11/8	315	324	11	3.3	0.03
期 別	福 島	コシヒカリ	会 津	確 認 米	東 京	16,757	3	11/15	627	302	11	3.6	0.04
期 別	福 島	コシヒカリ	浜 通 り	確 認 米	東 京	落札なし	-	10/11	-	270	0	0.0	0.0
期 別	福 島	ひとめぼれ		確 認 米	東 京	落札なし	-	11/15	-	270	0	0.0	0.0
期 別	茨 城	コシヒカリ		確 認 米	東 京	落札なし	-	10/11	-	420	0	0.0	0.0
期 別	栃 木	コシヒカリ		確 認 米	東 京	落札なし	-	11/1	-	996	0	0.0	0.0
期 別	千 葉	コシヒカリ		確 認 米	東 京	落札なし	-	10/25	-	600	0	0.0	0.0
期 別	長 野	コシヒカリ		確 認 米	東 京	15,904	1	11/8	535	539	61	11.4	0.1
期 別	長 野	あきたこまち		確 認 米	東 京	14,547	6	11/8	527	122	122	100.0	2.0
期 別	新 潟	コシヒカリ	一 般	確 認 米	東 京	18,854	0	11/15	525	1,567	98	6.3	0.1
期 別	新 潟	コシヒカリ	魚 沼	確 認 米	東 京	30,837	2,051	10/11	6,494	3,011	3,011	100.0	3.0
期 別	新 潟	こしいぶき		確 認 米	東 京	15,389	0	11/15	315	220	24	11.1	0.1
期 別	富 山	コシヒカリ		確 認 米	大 阪	落札なし	-	11/8	-	720	0	0.0	0.0
期 別	石 川	コシヒカリ		確 認 米	大 阪	落札なし	-	11/8	-	204	0	0.0	0.0
期 別	岐 阜	コシヒカリ		確 認 米	大 阪	15,647	0	11/8	352	144	24	16.7	0.2
期 別	三 重	コシヒカリ	一 般	確 認 米	大 阪	落札なし	-	10/11	-	259	0	0.0	0.0
期 別	三 重	コシヒカリ	伊 賀	確 認 米	大 阪	落札なし	-	9/13	-	130	0	0.0	0.0
期 別	滋 賀	コシヒカリ		確 認 米	大 阪	落札なし	-	9/27	-	270	0	0.0	0.0
期 別	島 根	コシヒカリ		確 認 米	大 阪	落札なし	-	11/1	-	292	0	0.0	0.0
期 別	山 口	コシヒカリ		確 認 米	大 阪	落札なし	-	-	-	508	0	0.0	0.0
期 別	山 口	ひとめぼれ		確 認 米	大 阪	落札なし	-	-	-	281	0	0.0	0.0
期 別	熊 本	コシヒカリ		確 認 米	大 阪	15,915	1	11/1	421	162	11	6.7	0.1
期 別	熊 本	ヒノヒカリ		確 認 米	大 阪	15,337	53	11/1	49	162	86	53.3	0.5
期 別	熊 本	森のくまさん		確 認 米	大 阪	15,284	0	11/1	3	162	43	26.7	0.3
計						16,626				18,621	3,949	21.2	0.5

資料：(財)全国米穀取引・価格形成センター調べ

注：1) その他の区分に「確認米」と記載されているものは、「コメ価格センター」業務細則第7条第1項に規定する「種子・栽培履歴確認米」である。

2) 落札加重平均価格は、銘柄ごとの落札加重平均価格に売り手から申出があった包装代(紙袋) 抛出金、消費税を含めた価格である。

この他、実際の受渡しに当たっては、購入地ごとに運賃加減表による運賃(格差) が加減される。

3) 計欄の落札加重平均価格は、落札銘柄ごとの落札加重平均価格を平成17年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

4) 前回差については、当該銘柄の落札のあった直前回の入札取引価格と比較している。

5) 数量については、トン未満を四捨五入している。

(2) 平成18年産米の相対取引価格の動向

相対取引価格については、コメ価格センターにおける18年産米からの取引ルールの見直しを踏まえて、政府米の備蓄運営の円滑化及び米穀の取引価格の透明性の確保に資するため、全国出荷団体等から報告を受けることとしたところです。

相対取引については、取引条件等により個々の取引価格は異なるものの、本年8月から10月までの産地銘柄ごとの相対取引価格をコメ価格センターの取引価格と比較すると、新潟コシヒカリ(魚沼)を除いて、コメ価格センター価格の95%～101%となっており、大きな乖離はみられません(表 - 14)。

表 - 14 平成18年産米の相対取引価格(平成18年8～10月分)

						(1 等・円 / 60kg)									(1 等・円 / 60kg)		
産 地	銘 柄	地域 区分	その他 の区分	相対価格		入札価格			産 地	銘 柄	地域 区分	その他 の区分	相対価格		入札価格		
						-	/								-	/	
北海道	きらら397		確認米	12,733		13,265	532	96%	富 山	コシヒカリ			確認米	16,355	16,437	82	100%
北海道	ほしのゆめ		確認米	13,010		13,351	341	97%	富 山	てんたかく			確認米	14,200	14,658	458	97%
青 森	つがるロマン		確認米	13,897		14,182	285	98%	石 川	コシヒカリ			確認米	16,071	16,124	53	100%
青 森	ゆめあかり		確認米	13,448		13,579	131	99%	福 井	コシヒカリ			確認米	15,744	16,321	577	96%
岩 手	あきたこまち		確認米	15,114		15,336	222	99%	福 井	ハナエチゼン			確認米	14,444	14,864	420	97%
岩 手	ひとめぼれ	A地区	確認米	15,373		15,485	112	99%	岐 阜	コシヒカリ	A地区		確認米	15,651	15,683	32	100%
宮 城	ササニシキ		確認米	15,506		15,547	41	100%	愛 知	コシヒカリ			確認米	15,428	15,495	67	100%
宮 城	ひとめぼれ		確認米	15,337		15,538	201	99%	三 重	コシヒカリ	一 般		確認米	15,539	15,730	191	99%
秋 田	あきたこまち		確認米	15,379		15,629	250	98%	三 重	コシヒカリ	伊 賀		確認米	15,933	16,228	296	98%
秋 田	ひとめぼれ		確認米	14,077		14,811	734	95%	滋 賀	コシヒカリ			確認米	15,566	15,914	348	98%
山 形	コシヒカリ		確認米	16,924		16,965	41	100%	滋 賀	日本晴			確認米	13,513	13,817	304	98%
山 形	あきたこまち		確認米	15,291		落札なし	-	-	滋 賀	キヌヒカリ			確認米	14,113	14,150	37	100%
山 形	はえぬき		確認米	15,342		15,389	47	100%	鳥 取	コシヒカリ			確認米	15,449	落札なし	-	-
庄 内	コシヒカリ		確認米	16,460		16,335	125	101%	鳥 取	ひとめぼれ			確認米	14,311	落札なし	-	-
庄 内	はえぬき		確認米	15,188		15,502	314	98%	鳥 根	コシヒカリ	A地区		確認米	15,577	15,609	32	100%
庄 内	ひとめぼれ		確認米	15,247		15,389	142	99%	岡 山	コシヒカリ				15,237	落札なし	-	-
福 島	コシヒカリ	中通り	確認米	16,019		15,999	20	100%	岡 山	あきたこまち				14,016	落札なし	-	-
福 島	コシヒカリ	会 津	確認米	16,831		16,904	73	100%	岡 山	ヒノヒカリ				14,228	落札なし	-	-
福 島	コシヒカリ	浜通り	確認米	15,878		15,914	36	100%	山 口	コシヒカリ			確認米	15,465	落札なし	-	-
福 島	ひとめぼれ	A地区	確認米	15,534		15,306	228	101%	山 口	ヒノヒカリ			確認米	14,546	落札なし	-	-
茨 城	コシヒカリ	A地区	確認米	15,605		15,844	239	98%	山 口	ひとめぼれ			確認米	14,455	落札なし	-	-
茨 城	あきたこまち		確認米	14,325		14,728	403	97%	福 岡	ヒノヒカリ			確認米	14,739	落札なし	-	-
茨 城	ゆめひたち		確認米	13,707		落札なし	-	-	福 岡	夢つくし			確認米	15,984	16,125	141	99%
栃 木	コシヒカリ	A地区	確認米	15,484		15,705	221	99%	熊 本	コシヒカリ	阿 蘇		確認米	16,025	16,145	120	99%
栃 木	ひとめぼれ		確認米	14,247		落札なし	-	-	熊 本	ヒノヒカリ			確認米	15,201	15,284	83	99%
栃 木	あさひの夢		確認米	12,880		13,460	580	96%	熊 本	森のくまさん			確認米	15,067	15,284	217	99%
千 葉	コシヒカリ		確認米	15,525		15,704	179	99%	大 分	ヒノヒカリ				14,865	15,075	210	99%
千 葉	ふさおとめ		確認米	14,209		14,339	130	99%									
長 野	コシヒカリ	A地区	確認米	15,905		15,979	74	100%									
長 野	あきたこまち		確認米	14,391		14,854	463	97%									
新 潟	コシヒカリ	一 般	確認米	18,646		18,855	209	99%									
新 潟	コシヒカリ	魚 沼	確認米	25,134		28,685	3551	88%									
新 潟	コシヒカリ	岩 船	確認米	18,847		落札なし	-	-									
新 潟	コシヒカリ	佐 渡	確認米	19,162		19,380	218	99%									
新 潟	こしいふき		確認米	15,131		15,389	258	98%									

資料：農林水産省

- 注：1) その他の区分に「確認米」と記載されているものは、「コメ価格センター」業務細則第7条第1項に規定する「種子・栽培履歴確認米」である。
 2) 相対価格は、銘柄ごとの加重平均価格に、包装代(紙袋) 消費税を含めた価格である。
 3) 入札価格は、銘柄ごとの落札加重平均価格に売り手から申出があった包装代(紙袋) 抛出金、消費税を含めた価格である。
 4) 実際の受渡しに当たっては、購入地ごとに運賃加減表による運賃(格差) が加減される。

(3) 卸売・小売価格の動向

平成17年産の卸売価格は、18年1月までは産地品種銘柄ごとのバラツキはみられるものの、大きな変動はみられませんでした。18年2月以降は、新潟コシヒカリ魚沼、北海道きらら397のセンター価格の上昇が卸売価格に反映されています(図 - 8)。

18年産の卸売価格(18年10月)は、新潟コシヒカリ魚沼、北海道きらら397の価格が前年と比較して上昇しています。

(参考) 各年10月の卸売価格の動向

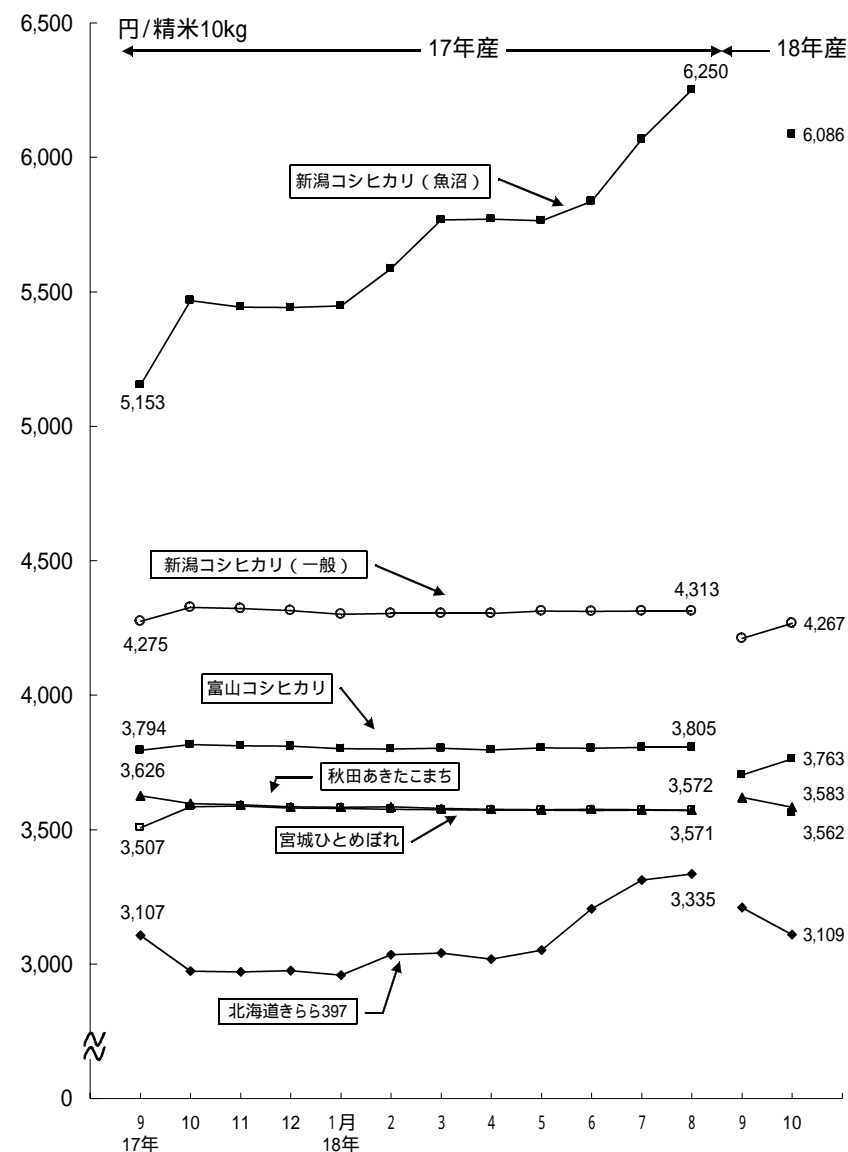
(単位 : 円 / 精米10kg、%)

産地品種銘柄	16年産		17年産				18年産		
	10月価格	年平均	10月価格	年平均			10月価格		
				対前年比(%)	対前年比(%)		対16年産比(%)	対17年産比(%)	
新潟コシヒカリ(魚沼)	5,976	5,831	5,468	91	5,757	99%	6,086	102	111
新潟コシヒカリ(一般)	4,357	4,489	4,327	99	4,311	96%	4,267	98	99
富山コシヒカリ	3,880	3,925	3,816	98	3,805	97%	3,763	97	99
秋田あきたこまち	3,759	3,699	3,596	96	3,579	97%	3,583	95	100
宮城ひとめぼれ	3,672	3,680	3,585	98	3,576	97%	3,562	97	99
北海道きらら397	3,136	3,079	2,974	95	3,097	101%	3,109	99	105

資料 : 「米穀の取引価格調査」

注 : 主要 6 銘柄の精米10kg当たりの全国平均価格(包装・消費税等込み)である。

図 - 8 米の卸売価格の推移(17・18年産)



17年産の小売価格についても、18年2月までは産地品種銘柄ごとのバラツキはみられるものの、大きな変動はみられませんでした。18年3月以降は、新潟コシヒカリ魚沼、北海道きらら397は上昇している反面、一部に下落する傾向を示す銘柄も出ています。（図 - 9）。

18年産の小売価格（18年10月）は、新潟コシヒカリ魚沼の価格が前年同期と比較して上昇しています。

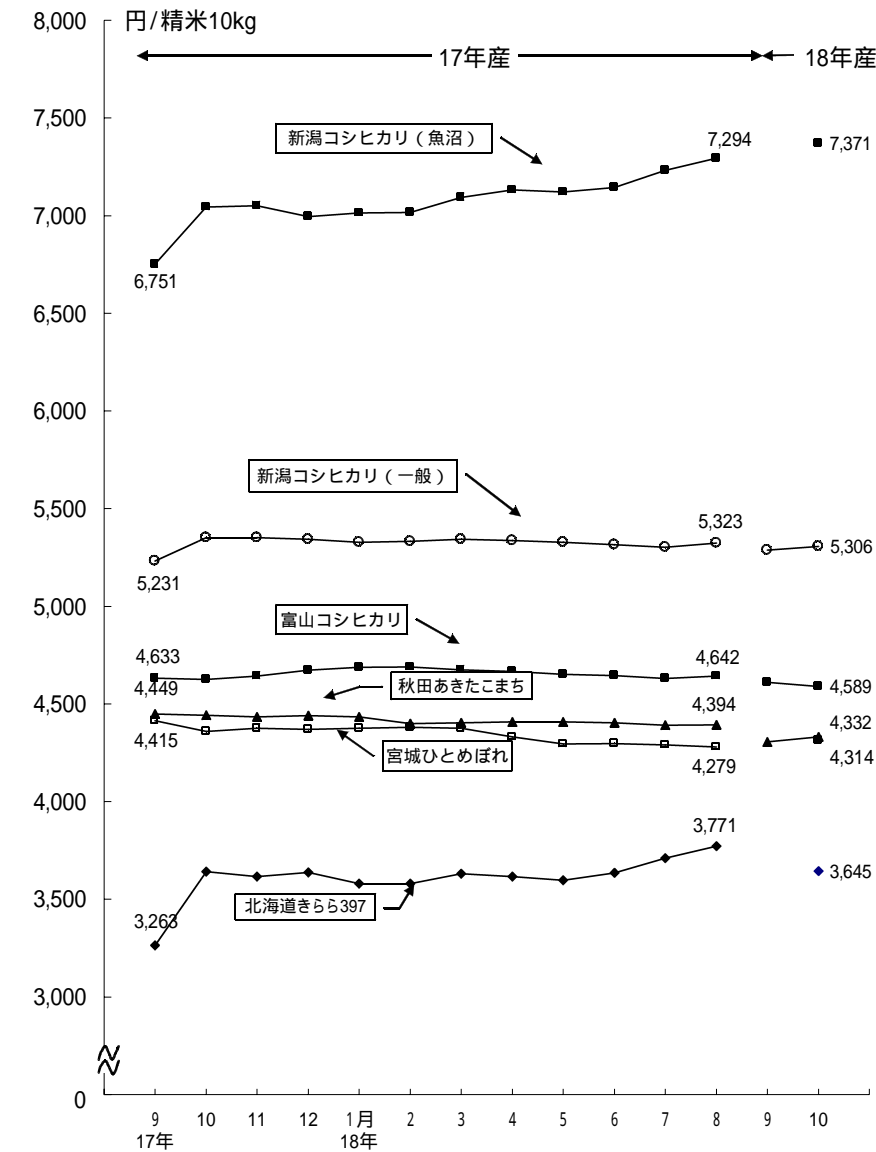
（参考）各年10月の小売価格の動向

(単位：円 / 精米10kg、 %)

産地品種銘柄	16年産		17年産				18年産		
	10月価格	年平均	10月価格		年平均		10月価格		
			対前年比(%)		対前年比(%)		対16年産比(%) 対17年産比(%)		
新潟コシヒカリ(魚沼)	7,636	7,421	7,043	92	7,120	96%	7,371	97	105
新潟コシヒカリ(一般)	5,472	5,458	5,351	98	5,332	98%	5,306	97	99
富山コシヒカリ	4,823	4,755	4,625	96	4,656	98%	4,589	95	99
秋田あきたこまち	4,690	4,595	4,442	95	4,414	96%	4,332	92	98
宮城ひとめぼれ	4,565	4,487	4,358	95	4,334	97%	4,314	95	99
北海道きらら397	3,899	3,773	3,642	93	3,648	97%	3,645	93	100

資料：「米穀の取引価格調査」
 注：主要6銘柄の精米10kg当たりの全国平均価格(包装・消費税等込み)である。

図 - 9 米の小売価格の推移（17・18年産）



17年産もち米の全国出荷団体から需要者への販売価格は、近年、もち米の需給が緩和しているため、前年産に比べて概ね3～5%低い水準となっています。

また、全国出荷団体と需要者との契約数をみると、契約栽培と年間契約第4回までの累計で約10.4万トン、前年比92.9%と低調に推移しています。これは、需要者が持越在庫を抱えているため、早急に原料の手当てをする必要がないためと考えられています。

18年産もち米の販売価格についても、作付増による生産量の増加が見込まれるため、需給は引き続き緩和基調にあることから、一部の銘柄を除き、17年産に引き続き下落しています。

また契約数量については、契約栽培と年間契約第1回までの累計で約8.2万トン、前年同期比で86.1%と17年産に引き続き低調に推移しています（表 - 15）。

表 - 15 もち米の販売価格及び契約数量

【17年産】 (単位：円/60kg、トン、%)

主産地	品種銘柄	販売価格		契約数量			
			対前年比	年間契約	契約栽培	計	対前年比
北海道	はくちょうもち	15,069	95.1	5,225	17,064	22,288	84.2
北海道	風の子もち	15,069	95.1	914	6,215	7,129	82.1
岩 手	ヒメノモチ	15,972	96.4	2,327	5,524	7,852	89.0
新 潟	こがねもち	19,072	97.4	2,082	3,116	5,198	107.6
新 潟	わたぼうし	16,472	97.1	1,435	3,219	4,655	129.5
福 岡	ヒヨクモチ	16,200	95.3	520	2,591	3,111	126.6
佐 賀	ヒヨクモチ	16,500	96.5	5,695	23,780	29,475	124.7
全国計	-	-	-	36,036	67,984	104,019	92.9

【18年産】 (単位：円/60kg、トン、%)

主産地	品種銘柄	販売価格		契約数量			
			対前年比	年間契約	契約栽培	計	対前年比
北海道	はくちょうもち	14,075	93.4	2,155	15,407	17,563	81.9
北海道	風の子もち	14,075	93.4	501	5,587	6,088	88.7
岩 手	ヒメノモチ	14,630	91.6	1,755	6,474	8,229	104.8
新 潟	こがねもち	19,072	100.0	328	4,256	4,584	90.5
新 潟	わたぼうし	16,472	100.0	120	4,165	4,285	93.7
福 岡	ヒヨクモチ	15,100	93.2	0	2,670	2,670	103.1
佐 賀	ヒヨクモチ	15,100	91.5	0	24,822	24,822	88.9
全国計	-	-	-	12,725	69,707	82,433	86.1

資料：全国出荷団体調べ

注：1) 全国出荷団体から聞き取った主要な産地品種銘柄別販売価格及び契約数量であり、18年産の前年比は17年産年間契約第1回までとの比較である。

2) 年間契約数量については、17年産は第1回～第4回まで、18年産は第1回までの数量である。

